



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



節電の夏

院長

かわせ いちろう
川瀬 一郎

皆さん、こんにちは。昨年に続いて今年も記録的な円高、電力不足、竜巻やヒョウが降るなど、暗いニュースが続いています。とくにこの夏の電力事情が気になりますね。関西電力管内では大飯原発が再稼働する予定とはいえ、それでも余裕があるとは言えません。危機的状況になった場合は病院に優先的に電気を回すとのことですが、ありがたいと思う一方、周辺の方々には誠に申し訳ないという気持ちです。まずは節電に努め、昼間の照明や空調を節約していきましょう。しかしそれは、患者さんの療養に支障が出ない範囲にとどめることは言うまでもありません。

当院は以前、災害訓練において緊急停電を想定した訓練を行いました。それはもう大変です。非常用電源だけで病院を稼働させるのですが、エレベーターはもちろん CT も動きません。まったく心細い限りであり、とにかく患者さんの急変が起きないように祈るばかりでした。

当たり前ですが、病院にはコンピュータをはじめ生命維持装置や各種モニター装置など、重要機器はすべて電気で動きます。停電が長引くようであれば、自動ドアや電動ベッドなどは手動にしないといけないかもしれません。ふだんから、「停電になったら」という気持ちで周囲を見回してみたいはいかがでしょうか？

定期検診で子宮がんの予防・早期発見に努めましょう

産婦人科

にしおか かすひろ
西岡 和弘

子宮がんには子宮の入口(頸部)にできる「子宮頸がん」と、子宮の奥(体部)にできる「子宮体がん」の2種類があります。この2つは、原因も発症年齢も進行の仕方も異なります。

子宮体がんが閉経前後の女性に多いのに対して、子宮頸がんは若い女性でもかかる可能性が高いがんです。

子宮頸がんは、世界で2番目に多く発生している女性特有のがんです。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がありません。不正性器出血や下腹部の痛みなどがある時には、すでに進行している場合があります。近年、20～30歳代の発生率の増加が著しく、死亡率も若年層で急激に上昇しています。子宮頸がんは、頸がんワクチンの接種と定期的な健診により大部分が予防できるといわれています。もし異常が発見されても、前がん病変の段階であれば、円錐切除という治療法(病変を円錐状に切り抜く手術)で治癒可能です。体への負担も少なく、子宮を残せ、また、治療後の妊娠や出産も可



能です。

子宮体がんは、子宮の奥(子宮体部)の内膜にできるがんです。年齢別にみた発生率は、40代後半から増加し、50代から60代にピークを迎え、その後減少します。証明されている危険因子としては、閉経年齢が遅い、出産の経験がない、肥満が挙げられています。その他にも、糖尿病、高血圧、乳がん・大腸がんなどの家族歴や特定の薬物も発症と関連する危険因子といわれています。一般的な症状は性器出血・水っぽいおりもの・下腹部痛などです。近年、若年子宮体がんも増加しており、閉経前後に月経以外の性器出血が持続した場合は、積極的に子宮体がん検診を受けることが必要です。早期に発見できれば、手術療法のみで治癒可能です。

2年に1回公費の市民検診がありますので、ぜひ検診を受けるようにしましょう。

<薬局の紹介シリーズ⑥>緩和ケアチームについて 薬局 こんどう 金銅 ようこ 葉子

がん医療における緩和ケアとはがんと診断された時から始まり、がんに伴う身体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切にできるよう、患者さんとそのご家族を支援させていただくことです。

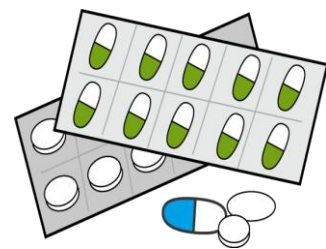
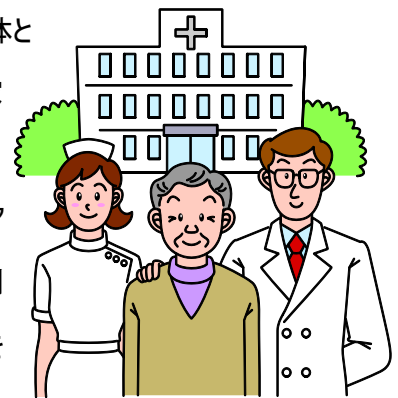
当センターでは、平成 23 年 4 月 1 日に緩和ケア病棟がオープンし、緩和ケアの様々な支援がおこなわれています。また、医師、看護師、臨床心理士、薬剤師らで構成されている緩和ケアチームが、患者さんの痛みやそれに伴う症状などを早期に取り除くことを目標に活動をおこなっていて、緩和ケアの知識などの共有と院内全体の緩和医療の質の向上に努めています。

薬剤師はチームの中で薬の専門家として、たくさんの種類の薬の中からその患者さんに適した薬を選ぶアドバイスをを行い、患者さんに薬の飲み方や使い方の説明を行っています。

- そして、1) 痛みをがまんしないこと
- 2) 鎮痛薬の効果と副作用
- 3) レスキュー(頓服薬)を正しく使えること

を患者さんに理解していただけるよう努めています。その後、患者さんがそれらの薬を正しく使うことができているか、あるいは副作用が出ていないかなどを確認して、患者さんの苦痛を取り除くお手伝いをさせていただいています。

薬で気になることなどございましたら、お気軽に薬剤師に声をおかけください。



7月の教室案内

*カンガルー教室	●7月4・11・18・25日	午後1時半～	第1会議室
*喘息教室	●7月19日	午後1時45分～	第2会議室
*禁煙教室	●7月5日	午後3時30分～	医療情報コーナー